

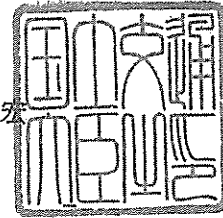


認 定 書

国住指第 4732 号
平成 23 年 4 月 13 日

日鉄住金鋼板株式会社
代表取締役社長 武田 厚 様

国土交通大臣 大島 章宏



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第三号（屋根：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP030RF-1352
2. 認定をした構造方法等の名称
ポリイソシアヌレートフォーム充てん両面塗装鋼板屋根（連続支持）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

ポリイソシアヌレートフォーム充てん両面塗装鋼板屋根(連続支持)

2. 申請仕様の寸法：

申請仕様の寸法を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法

項 目	申 請 仕 様
葺材の働き幅	500～1000mm
支持部材間隔	1500mm以下
支持方法	連続支持

3. 申請仕様の主構成材料：

申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項目	申請仕様
<p>葺材</p> <p>表面鋼板 (外皮・内皮)</p>	<p>材料：ポリイソシアヌレートフォーム充てん両面合成樹脂塗装鋼板 幅：働き幅500～1000mm、全幅517(±3)～1017(±3)mm 厚さ：35(±3)mm</p> <p>材質：①～⑪の一</p> <p>①ポリ塩化ビニル被覆金属板(JIS K 6744) 下地金属板の種類：S、SG、SA、SE、SC又はSU (但しSUの場合は、フェライト系ステンレス鋼に限る)</p> <p>②塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312)</p> <p>③塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3318)</p> <p>④塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322)</p> <p>⑤電気亜鉛めっき鋼板(JIS G 3313)に塗装したもの</p> <p>⑥塗装溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板(国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0070)、又は冷間圧延鋼板(JIS G 3141) SPCC に当該めっきを施したものに塗装したもの</p> <p>⑦塗装/亜鉛めっき鋼板(国土交通大臣認定不燃材料：NM-8697)</p> <p>⑧塗装ステンレス鋼板(JIS G 3320) (但し、原板をフェライト系ステンレス鋼とするものに限る)</p> <p>⑨溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)</p> <p>⑩溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321)</p> <p>⑪冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305) (但し、フェライト系ステンレス鋼に限る)</p> <p>厚さ： 外皮；0.5～1.0mm 内皮；0.35～1.0mm</p> <p>表面形状：平滑、波型、リブ又はエンボス</p> <p>塗装(被覆材)：外皮1)～7)の一、内皮3)～7)の一</p> <p>1)ポリ塩化ビニル系樹脂 2)ポリオレフィン系樹脂 3)ポリエステル系樹脂 4)フッ素系樹脂 5)エポキシ系樹脂 6)ウレタン系樹脂 7)なし(表面鋼板の材質が⑨、⑩又は⑪のとき)</p> <p>有機質量：外皮288(±30)g/m²以下、内皮50(±5)g/m²以下</p>
<p>芯材</p>	<p>材質：ポリイソシアヌレートフォーム</p> <p>厚さ：34.15(±3)mm</p> <p>組成(質量%)： ポリオール(反応促進剤等を含む) 40(±4) イソシアネート 60(±4)</p> <p>密度：45(±5)kg/m³</p> <p>酸素指数：21.8(-2.2)以上</p>

4. 申請仕様の副構成材料：

申請仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 申請仕様の副構成材料

項目	申請仕様
留付材	<p>葺材固定用 材料：①又は② ①タッピンねじ ②ドリルねじ 材質：1)～5)の一 1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2) 2)機械構造用炭素鋼鋼材(JIS G 4051) 3)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315) 4)軟鋼線材(JIS G 3505) 5)硬鋼線材(JIS G 3506) 寸法：φ6×60mm以上 留付間隔：455mm以下</p> <p>葺材目地部用 材料：①又は② ①タッピンねじ ②ドリルねじ 材質：1)～5)の一 1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2) 2)機械構造用炭素鋼鋼材(JIS G 4051) 3)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315) 4)軟鋼線材(JIS G 3505) 5)硬鋼線材(JIS G 3506) 寸法：φ4×33mm以上 留付間隔：250mm以下(母屋上部分は除く)</p>
目地材 (パッキン)	<p>材料：無機膨張材混入ロックウールフェルト 基材； 組成(質量%)： ロックウール 80.0(±5.0) セルローズ系繊維 3.5(±1.5) 無機膨張材(グラファイト) 12.5(±2.5) バインダー、バインダー助材 4.0(±1.0) 質量：800(±100)g/m²(ラミネート材含む) 厚さ：4(±0.4)mm以上 幅 ：25(±2.0)mm以上 ラミネート材；①、②又は③ ①ポリエステルニードルパンチ張り 張方：両面張り又は片面張り 質量：55(±5.5)g/m²(片面当たり) ②ポリエステル接着張り 張方：両面張り又は片面張り 質量：30(±3)g/m²(片面当たり) 接着剤：ポリウレタン系 使用量(固化時)：25(±2.5)g/m² ③なし</p>

つづく

つづき

シール	<p>材料：ポリエチレンフィルム蒸着クラフト紙 クラフト紙の質量：100(±10)g/m²以下 ポリエチレンの厚さ：0.02(±0.005)mm以下</p>
目地貼付け材	<p>材料：①、②又は③ ①なし ②アルミニウムテープ 厚さ：0.1(±0.01)mm以上 幅：25(±2.0)mm以上 ③ガラス繊維入りアルミニウムテープ 厚さ：0.2(±0.02)mm以上 幅：25(±2.0)mm以上</p>
ジョイント材	<p>材料：①又は② ①ロックウールフェルト 基材； 組成(質量%)： ロックウール 92(-3、+2) セルローズ系繊維 4(-2、+1) バインダー、バインダー助材 4(±1.0) 質量：1315(±130)g/m²(ラミネート材含む) 厚さ：6(±0.6)mm以上 幅：35(±3.0)mm以上 ラミネート材；1)及び2) 1)ポリエステルニードルパンチ張り 張方：片面張り又はなし 質量：55(±5)g/m²(片面当たり) 2)ポリエチレン接着張り 張方：片面張り又はなし 質量(離野用シリコン含む)：20(±2)g/m²(片面当たり) 接着剤：アクリル系 使用量(固化時)：45(±4.5)g/m² ②無機膨張材混入ロックウールフェルト 基材； 組成(質量%)： ロックウール 80.0(±5.0) セルローズ系繊維 3.5(±1.5) 無機膨張材(グラファイト) 12.5(±2.5) バインダー、バインダー助材 4.0(±1.0) 質量：1515(±150)g/m²(ラミネート材含む) 厚さ：6(±0.6)mm以上 幅：35(±3.0)mm以上 ラミネート材；①と同じ</p>

つづく

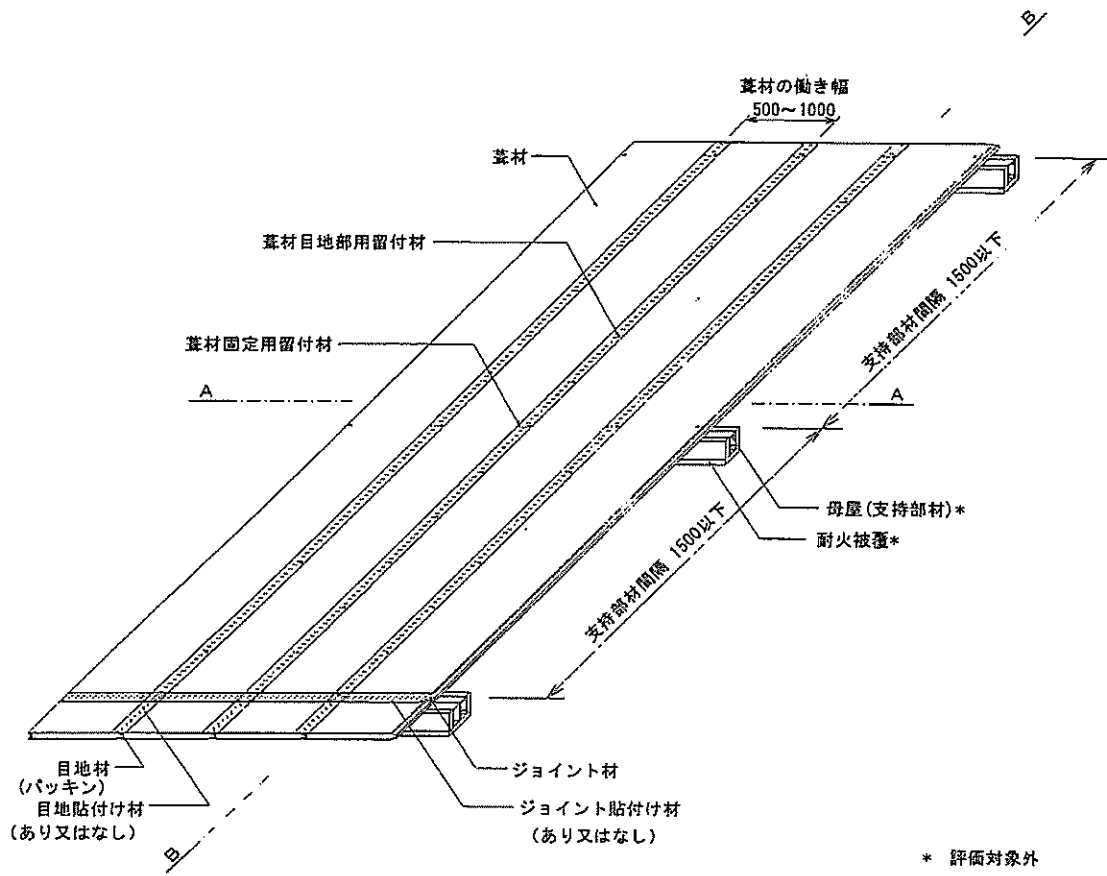
つづき

ジョイント貼 付け材	材料：①～⑤の一 ①不織布付きゴムテープ 主材：ゴム系(ブチルゴム) 質量：26g/m ² 以下 不織布：ポリエチレン 質量：25g/m ² 以下 厚さ：0.5(±0.07)mm以下 幅：75(±5)mm以下 ②ポリエチレンテープ 厚さ：0.15(±0.02)mm以下 幅：75(±5)mm以下 質量：15g/m以下 ③アルミニウムテープ 厚さ：0.1(±0.01)mm以上 幅：25(±2)mm以上 ④ガラス繊維入りアルミニウムテープ 厚さ：0.2(±0.02)mm以上 幅：25(±2)mm以上 ⑤なし
---------------	---

5. 申請仕様の構造説明図：

申請仕様の構造説明図を図1～図4に示す。

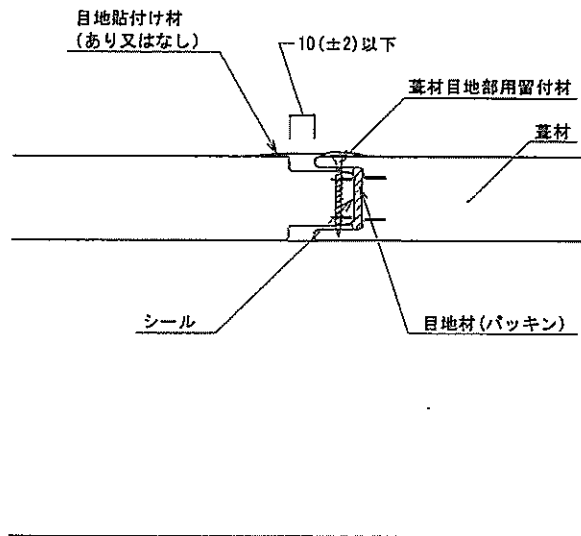
単位mm



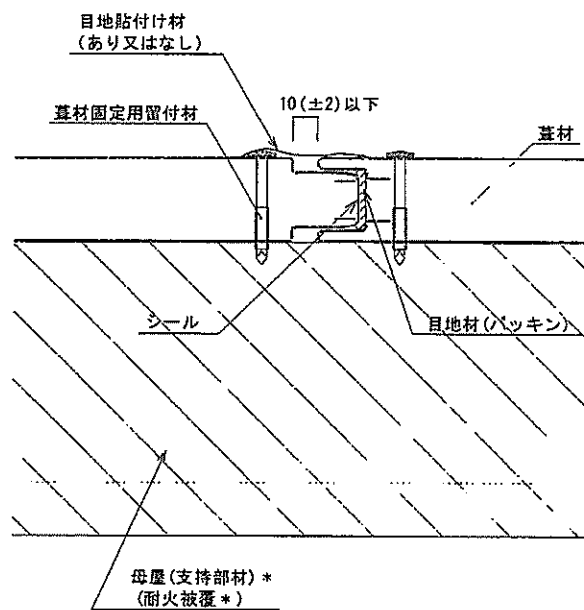
透視図

図1 構造説明図

単位mm



一般部



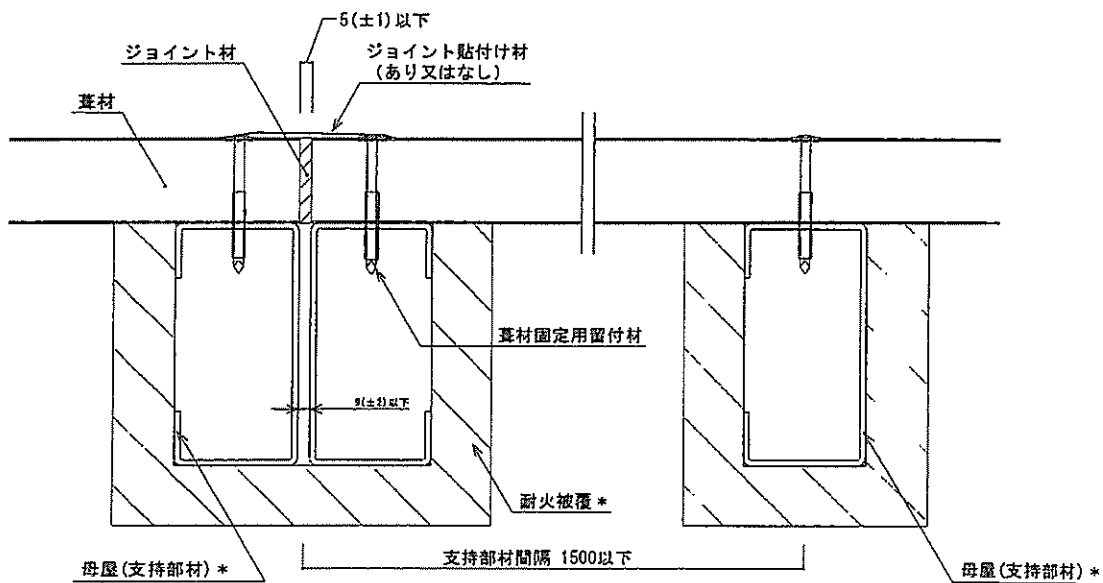
母屋上部(葺材支持部)

* 評価対象外

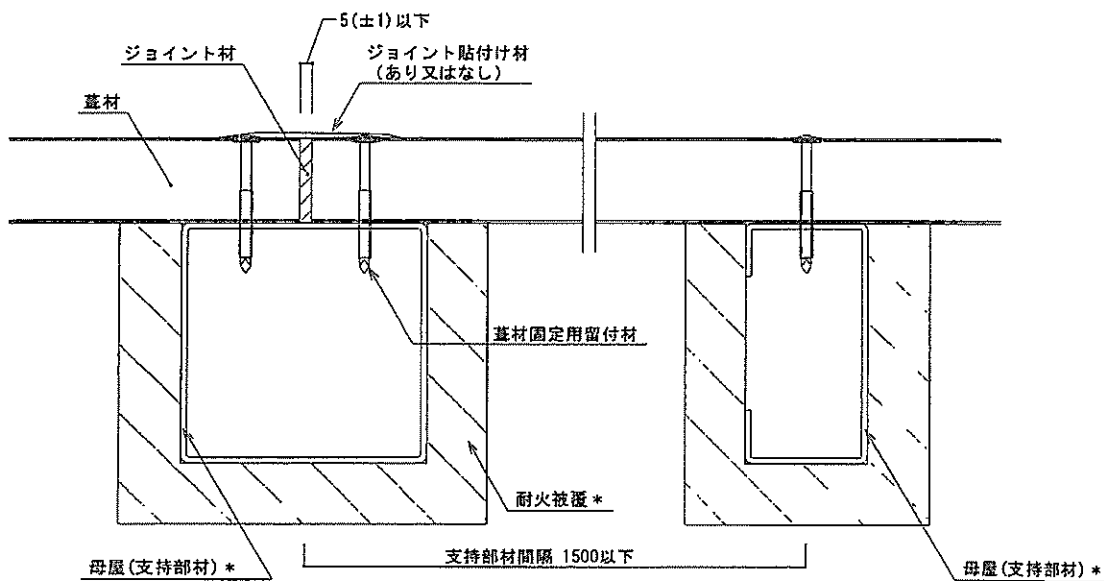
A-A断面詳細図(葺材目地部)

図2 構造説明図

単位mm



葺材ジョイント部の母屋がC形2本合わせの場合



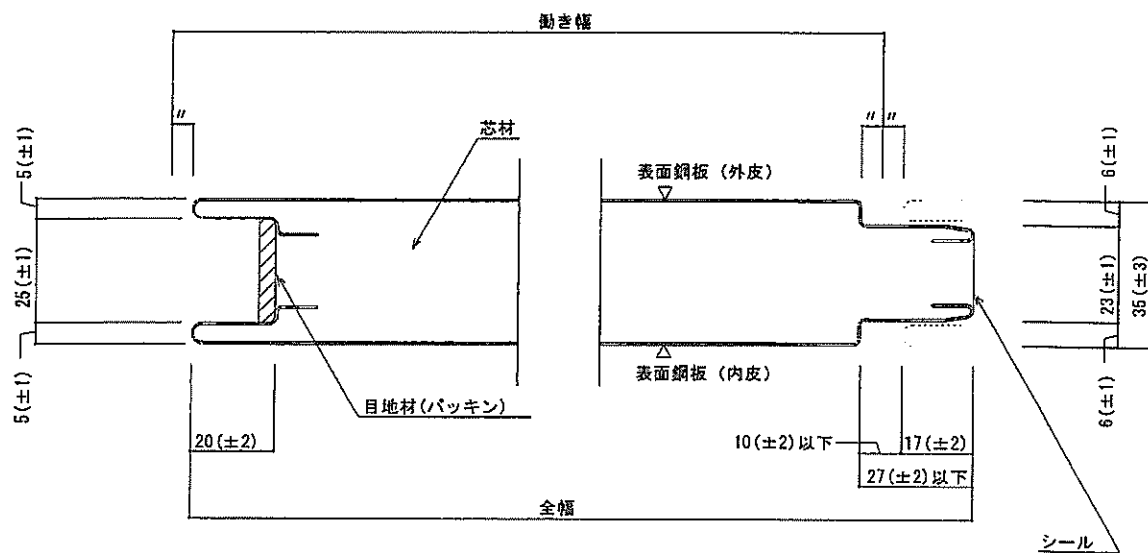
葺材ジョイント部の母屋が角形の場合

* 評価対象外

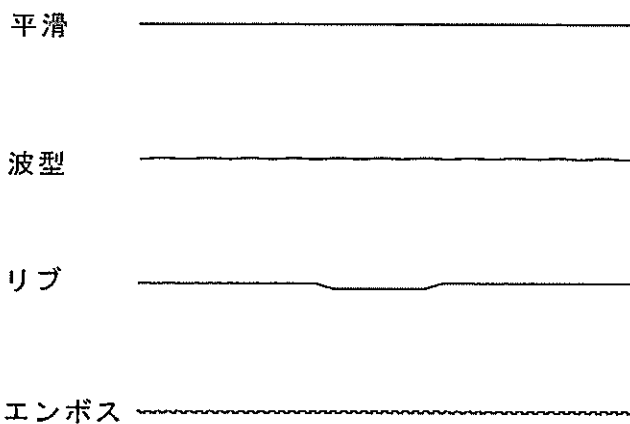
B-B断面詳細図

図3 構造説明図

単位mm



葺材断面図



葺材表面鋼板(外皮・内皮)の表面形状

図4 構造説明図

6. 施工方法：

施工図を図5に示す。

施工は、以下の手順で行う。

(1) 下地の取付け

- ・母屋は所定の間隔で屋根面が平滑になるように配列する。
- ・母屋は構造計算等により構造安全性が認められた寸法とする。

(2) 葺材の取付け

- ・葺材は留付材を用いて所定の間隔で母屋に取付ける。

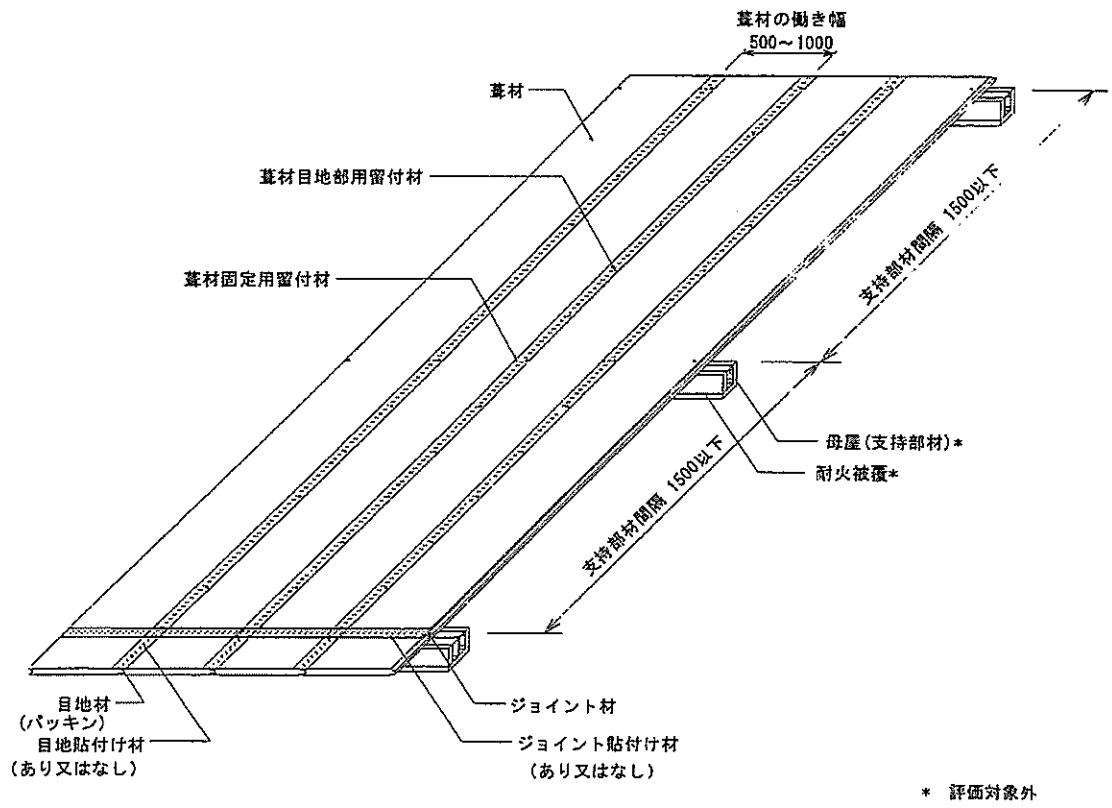
(3) 葺材の目地部(嵌合部)

- ・葺材の目地部には、目地材(パッキン)及びシールを装着する。
- ・葺材の目地部には、留付材を所定の間隔で取付ける。
- ・葺材の目地部には、必要に応じて目地貼付け材を装着する。

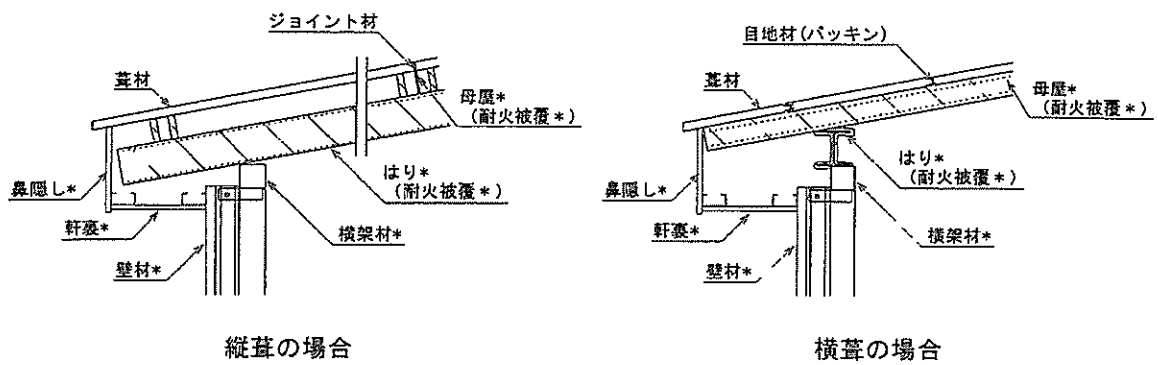
(4) 葺材のジョイント部(母屋上部分)

- ・葺材のジョイント部には、ジョイント材を装着する。
- ・葺材のジョイント部には、必要に応じてジョイント貼付け材を装着する。

単位mm



透視図



鉛直断面図

図5 施工図